

短大における就職合宿の取り組み

— 就職活動意欲を高める働きかけ —

稲垣水かげ、木村典子、寺島雅隆、杉浦博子、横田正、中山弘之、

College students' effects of intensive training camps of job-hunting

— Pressure to raise job hunting awareness —

Mikage Inagaki, Noriko Kimura, Masataka Terashima, Hiroko Sugiura, Tadashi Yokota, Hiroyuki Nakayama

キーワード：就職合宿 training camps of job-hunting、
就職活動意欲 job hunting awareness

I. はじめに

経済的な背景を反映し 2009 年以降大学卒業予定の学生の就職状況は大きな影響をうけている。2011 年 4 月の厚生労働省と文部科学省の調査では就職率が 91%と 1996 年の調査開始以来、最低となった。短期大学における内定率はさらに悪く 84.1%であった。厚生労働省は学生センター、情報サイトなど学生向けサービスを充実させ、対応をしている。また、厚生労働省、経済産業省とも協力をして強化をしてきているのが現状である。2009 年厚生労働白書で若者の自立支援の取り組みにおいて「若者が自らの個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力態度を育てるために、学校段階からの就業意識の形成支援が重要である」と述べ、教育機関としての責務を報告している。本学においても、キャリア形成のため、一年生の段階からさまざまな取り組みをしている。しかし、いざ就職活動をしようとなるとなかなかし込みをしまい、積極的な活動に結びつくことが少なく、最終的に自分の思いとは違った職場への就職、フリーター、就職をしても早期退職といった事

態になっている。今回、早期の段階で、学生の就職活動意欲を高め、実際の就職活動に結びつけようという試みとして、就職合宿を行った。就職指導委員と就職課の職員が一丸となって取り組んだ。この活動の成果と今後に向けての対策について報告をしていく。

II. 就職合宿を実施した経緯

今回の就職合宿が最初に提案されたのは、2010 年 6 月 10 日に開催された第 2 回短大就職指導委員会においてであった。

委員会では、新年度が始まった 4 月から議論を重ねる中で、I で示したような流れを食い止めるにはどうすればよいのかという問題意識が、次第に共有されていった。そして、少しでも事態を打開するためには、これまでよりもさらに一歩踏み込んだ取り組みが必要ではないかという議論が展開される中で、就職合宿の実施が提起された。

その後、月例で開催される委員会において、愛知県内他大学の就職合宿の取り組みなども参考にしながら、合宿の目的と内容について討議が重ねられた。そして、2011 年 2 月 8 日～9 日、

就職合宿は実施されるに至った。

委員会で討議する中では、就職合宿を企画するにあたっての視点として、次のようなものが挙げられた。

1. 合宿を通して、自分の就職や進路について真剣に考えている学生が、周囲の雰囲気や就職活動への不安から実際の活動に二の足を踏まないように、逆に自分の進路選択のための活動に思い切って一歩を踏み出せるように励ます。
2. 他大学の就職合宿は、面接指導の徹底を主眼に置いているものが多い。しかし、本学の場合、就職活動に尻込みして、自分の思いを他者になかなか表現できない学生が多いことを勘案して、自己啓発(他者の前で自己PRができるようになること)と就職に対する意識づけを中心に、学生の就職活動意欲を高めることを、合宿の主眼とする。
3. 合宿をきっかけに、合宿に参加していない学生も含めて、就職活動や進路選択について励まし学び続ける仲間が形成されるよう、委員会として可能な方向づけを行う。そのことを通して、周囲の他学生も刺激を受け、学生全体に就職や進路について真剣に考える雰囲気がつくられていくことを展望する。

Ⅲ. 就職合宿の実施要項

1. 就職合宿の広報
2010年11月に短期大学生1年生に、掲示、授業等で説明をして、参加者を募った。
2. 就職合宿の目的
 - 1) 社会人になるための意識を高める。
 - 2) 自己を磨き、自己PRができるようになる。
 - 3) 参加者同士が仲間意識を持つ。
 - 4) 励まし合いながら学び続ける。
3. 事前課題
 - 1) 申込時に作文を提出(課題『就職活動をするにあたって』1,000字程度)
 - 2) 『キャリア形成ガイドブック』を熟読する。
 - 3) 履歴書を作成する。
 - 4) 業種と職種を考え、具体的な企業も考える。

5) 合宿前にキャリアカウンセリングを受ける。

4. 就職合宿のルール

- 1) 挨拶は大きな声で元気よく。
- 2) 研修は前向きに笑顔でのぞむ。
- 3) 注意を受け、指導された場合は、素直に向上心を持って受け止める。
- 4) 目上の人には敬語を徹底する。
- 5) 研修中は携帯電話の使用は禁止。
- 6) 体調不良を感じた時は、速やかにスタッフに申し出る。
- 7) 教員が指定したグループで部屋を利用する。無断で部屋を移動して宿泊しない。

5. 日程・スケジュール

平成23年2月8日(火)～9日(水)
(1泊2日)

1日目(2月8日)	
11:00	東岡崎集合、出発
12:00	現地集合、昼食
12:50～13:30	オリエンテーション 研修内容・ルール説明 スタッフ紹介 決意表明作成 課題(履歴書)提出 アイスブレイク①
13:30～14:30	演習①(自己啓発)
14:30～16:00	演習②(自己分析)
16:00～17:50	演習③(自己紹介発表) 各自2分程度で発表
17:50	宿泊室へ移動
18:00～19:00	夕食
19:00～21:00	講義(就職活動に向けて) 業種と職種の説明 心構え、活動スケジュール 企業が求める人材
21:00	課題(履歴書)返却 解散(入浴、就寝) *履歴書を翌朝までに完成させる

2日目（2月9日）	
07：00	集合 履歴書回収 ラジオ体操 アイスブレイク②
07：30～08：30	朝食
08：30～09：30	マナー講習 教職員による寸劇
09：30～10：00	身だしなみについて
10：00～12：00	演習④（個人面接）
12：00～13：00	昼食、休憩
13：00～14：20	演習⑤（集団面接） グループディスカッション演習
14：30～16：00	討議内容発表 まとめ 今後の活動について 決意表明書返却 アンケート回収
16：00	感想発表
16：45頃	現地解散、バス出発 東岡崎着、解散

*外部講師（演習担当）

1日目：坂元誉子 先生 株式会社学研メディア
コン

2日目：高橋恵理子 先生 本学キャリアカウンセラー

6. 研修場所・費用

桑谷山荘（岡崎市山綱町字扇子山）

9,000円（1泊4食、会場使用料、受講料、消費税含む）

IV. 実施成果

1. 実施概要

1) 参加者

生活デザイン総合学科 28名（申込者 31名 欠席者 3名）

引率：短大就職指導委員 6名、就職課職員 2名 合計 8名

2) 研修の内容

1日目は、坂元先生の自己啓発・自己分析に始まり、その後、各自一人ずつ自己PR

を行った。夜の講義において、就職活動の概要や求められる人材像を把握することができた。講義後、チェックされた履歴書に対して訂正を行い、志望動機と自己PRの文面を考え、夜中の2時以降まで格闘する学生がいた。教職員も2時まで対応した。



写真1 授業風景



写真2 授業風景



写真3 自己PR





写真4 食事風景

2日目は、ラジオ体操とアイスブレイクで体をほぐすことから始めた。

教職員の寸劇を通じて、マナー及び心構えを学んだ。この寸劇のシナリオは、就職活動で学生がつまずきやすい問題(会社への電話アポイント、入社試験の欠席連絡、入社試験での受験態度、入社試験結果報告)にそって、本学の学生の特徴も踏まえた上で、中山弘之就職指導委員が中心となって4編執筆された。事前に教員は練習をして臨んだ。

高橋先生より就職活動の傾向や身だしなみ等について講義を受けた。その後、個人面接およびグループディスカッションを行った。個人面接では、自己PR、志望動機を行った。グループディスカッションでは集団面接についての講義を受けた後、「あなたが桃太郎なら、鬼が島に1匹だけ連れていくのは雉・猿・犬のどれか」など、与えられた3つのテーマについてディスカッションを行った。

最後は、提出した自己PRに対する教職員によるコメントと、決意表明書を返却し、アンケートを記入し、感想を一人一人述べて終了に至った。



写真5 ラジオ体操



写真6 アイスブレイキングエクササイズ



写真7 教員による寸劇(テーマ面接試験)



写真8 授業風景



写真 9 模擬面接



写真 10 まとめ(学びの発表)



写真 11 合宿参加者

2. 就職合宿終了後の学生アンケートの結果アンケートは就職合宿終了日にすべてのスケジュールが終わった後実施をした。

- 1) 「就職合宿に参加してよかったか」に対して
「はい」が 28 名、全員であった。

- 2) 「就職合宿に対する満足度」について
(図 1)

「120%」が 1 名、「100%」が 11 名、「95%」が 2 名、「90%」が 5 名、「88%」が 1 名、「85%」が 2 名、「80%」が 3 名、「無回答」1 名であった。

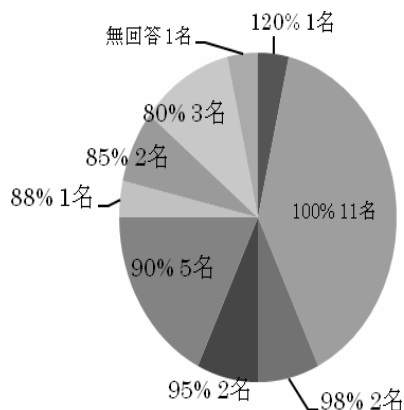


図 1 就職合宿に対する満足度

- 3) 「合宿で得られたもの」について(自由記述)
(表 1)

「就活への意識向上・積極性が身についた」13 名、「具体的な就活の為の知識や具体的な方法、マナーを知ることができた」10 名、「慣れない人とのコミュニケーション能力や協調性が身に付いた」7 名、「就活をがんばろうと考える友人を得ることができた」7 名、「具体的なトレーニングの中で、自分自身の現状を知ることができた」4 名、「具体的なトレーニングの中で、少し自信がついた」4 名、「就職課や就職指導委員の先生方とも親しくなれ、困った時の相談場所を見つけられた」2 名、「素直に自分を表現するきっかけが得られた」1 名であった。

- 4) 「就職合宿でよかった企画」について(3つを選択)(表 2)

「演習④個人面接」27 名、「演習⑤グループディスカッション」25 名、「履歴書の作成・添削」11 名、「演習①～③」8 名、「演習②自己分析」5 名、「演習③発表(自己紹介)」5 名、「アイスブレイク」2 名、「マナー講習」1 名、「先生・職員による就活寸劇」1 名であった。

- 5) 「就職活動に大切だと感じたことと合宿前と

後の考え方の変化」について(自由記述)

(表 3)

「積極的な行動」11名、「就職するぞ」という意欲7名、「根気強さ」4名、「コミュニケーション能力」3名、「自己理解」2名、「自己分析何に対しても自分の意見を持つこと」2名、「より深い企業研究」2名であった。

6)「内定はもらえそうであるか、今の自信」について

「自信がある」12名(42.9%)、「わからない」14名(50%)、「自信がない」2名(7.1%)であった。

① 「自信がある」と答えた人の理由

- ・参加したことでやる気が出てきたから。
- ・合宿でたくさんの方が学べて自信がついたから。
- ・自分に今足りないこと、やるべきことが分かったから。
- ・「いいえ」などと答える後ろ向きの人材は企業は求めていると思うから。
- ・自分の考えに自信を持つことができたから。
- ・どんどん採用試験に挑戦しようと思ったし、内定がでるまで諦めないと思うようになったから。
- ・2日間のハードスケジュールをやりきったことが自信につながったから。

② 「わからない」と答えた人の理由

- ・筆記試験の勉強がまだ出来ていないから。
- ・今後の自分の行動によると思うから。
- ・自信はついたけれど、実際に試験を受けるまでは分からない。
- ・学外にはレベルの高い人がたくさんいるかもしれないという不安は拭えない。

③ 「自信がない」と答えた人の理由

- ・自己分析が不十分だと思うから。面接の受け答えにまだ自信が持てないから。
- ・志望動機がしっかりしていない。

表 2 就職合宿でよかった企画
(3つを選択)

項目	人数
演習④個人面接	27
演習⑤グループディスカッション	25
履歴書の作成・添削	11
演習①～③	8
演習②自己分析	5
演習③発表(自己紹介)	5
アイスブレイク	2
マナー講習	1
先生・職員による就活寸劇	1
演習①自己啓発	0

表 1 合宿で得られたもの(自由記述)

項目	人数
就活への意識向上・積極性が身についた。	13
具体的な就活の為の知識や具体的な方法、マナーを知ることができた。	10
慣れない人とのコミュニケーション能力や協調性が身に付いた。	7
就活をがんばろうと考える友人を得ることができた。	7
具体的なトレーニングの中で、自分自身の現状を知ることができた。	4
具体的なトレーニングの中で、少し自信がついた。	4
就職課や就職指導委員の先生方とも親しくなれ、困った時の相談場所を見つけられた。	2
素直に自分を表現するきっかけが得られた。	1

表3 就職活動に大切だと感じたことと合宿前と後の考え方の変化(自由記述)

項目	人数
積極的な行動	11
「就職するぞ」という意欲	7
根気強さ	4
コミュニケーション能力	3
自己理解、自己分析	2
何に対しても自分の意見を持つこと	2
より深い企業研究	2
就職活動において切磋琢磨できる友人	1
向上心	1
筆記試験の勉強	1
気になることはとにかく聞くこと	1
周りを気にせず一人で行動できる力	1
就職に対する不安や疑問はため込まず、その気持ちを人に伝えること	1
面接や筆記試験のレベルを上げることも大事だけれど、何よりもその企業に入りたいという熱意を持つこと	1

V. 考察

アンケート結果から、学生たちの満足度は高いことが分かった。(図1) 就職活動に必要な姿勢、具体的な履歴書作成、個人面接などといった就職試験対策について学ぶことで意識の向上につながったと考えられる。また、学生の記述から、積極的な姿勢、意欲を高めていくことが就職活動をしていくには必要であることが多くの学生はわかったようであった。一日目の演習が、実際に、自己分析・自己啓発といった学生にとって、良い影響を与え、積極的な姿勢、意欲につながったと、学生の表情をみていると伺えた。(表1、3)

しかし、内定をもらえるかという自信について問うと、「わからない」と「自信がない」をあわせると57.1%となり、半数以上となる。就職合宿を通して、就職活動についてのイメージはついたが、できるといった自信にはつながっていないようであった。

Bandura は人間が何らかの行動を起こす際、目標とともに、その上手く成し遂げることができるかという見通しが必要であり、上手くできそうだという自信がなければその

行動を遂行しようとしなると言っている。自己効力感の高いものは、自分の能力に限られたものであっても、その困難に立ち向かおうと努力をしようと言っている。また、自己効力感の源泉は4つあり、第一に遂行行動の達成成功体験と言える。第二に自分に似た他者が努力により、達成したことをみることで自分にもできるであろうといった代理的経験、第三に、励ましといった言語的説得、第四に生理的な過剰反応を減らし、解釈の仕方を変えるといった情動喚気と言っている。このいずれの4つに対して学生への働きかけは可能であると考えられる。学生達の自己効力感を高め、就職活動に結びつける取り組みには意図的な関わりが必要であるといえる。

たとえば、関わり方として、履歴書の内容の充実、面接練習での上達、取り組み姿勢の変化について誉めていくことがある。先輩からの話を聞く機会を作ること、戸惑っている時やつまずいている時に考え方の幅を広げていく意図的な働きかけはできる。些細ではあるが、こういったきめ細かいことが学生の自己効力感をあげ、積極的な就職活動に結びつくのであると考える。

集中的な合宿において、モチベーションは高まる。この、モチベーションを継続して高めていく取り組みの日々が学生生活の中で必要となってくると考える。これがまさに自己効力感を高める働きかけになっていくのではなかろうか。

VI. おわりに

就職合宿が学生に積極的な就職活動を促す効果があったことは明らかである。本学の学生の特徴を考えて、今回の合宿では自己PRができるようになるということの主眼に置き、合宿の研修目的にも掲げたが、もう一ランク上の自己PRが上手にできるといったことを目標にしてもよいといった意見が教員からあった。学生が合宿中に切磋琢磨し、自己成長をした結果なのかもしれない。今後も就職合宿を続けて学生が就職活動を現実的なものとしてイメージし、前に踏み出すものになるものとしていきたい。

また、先述の合宿で喚起されたモチベーションを継続して高めていく取り組みとして、就職指導委員会では、「就職フォローアップセミナー」と称する取り組みを、就職合宿参加者を中心に月一回開催している。このセミナーや日ごろの就職指導業務も併せながら、短期大学生の就職活動意欲を高める就職指導のあり方について、今後も追究していきたい。

- 7) 安達智子、進路選択に対する効力感と就業動機、職業未決定の関連について、女子短大生を対象とした検討、心理学研究、72、10-18、2001

付記

本稿は、木村典子就職指導委員が起案した草稿を就職指導委員および佐藤雅予、佐野香両就職課職員に加わっていたたき、討議を通して、加筆・修正したものである。

参考文献

- 1) 厚生労働省報道発表 <http://www.mhlw.go.jp> 2012.
- 2) 「平成 21 年度版厚生労働省白書」厚生労働省 2011.
- 3) Bandura, A Self-efficacy, Psychological Review, 84. 191-215、1997
- 4) 楠奥繁則、大学生の進路選択における自己効力の疎外に関する一考察、アイデンティティの視点から、立命館経営学、44、2、105-120、2005
- 5) 浦上昌則、学生の進路選択に対する自己効力に対する研究、名古屋大学教育学部紀要 42、115-126、1995
- 6) 浦上昌則、女子短大生の職業選択過程についての研究、教育心理学研究、44、2、195-203、1996